

緑の相談所だより

—第40号—

[初夏から夏号 1996. 6. 1発行 編集：旭川市緑の相談所]

《山野草の育て方》

日時 6月9日(日) 午後1～3時

講師 北海道山草趣味の会
会長 村田 悠治氏

定員 50名 無料

※同時開催 山草展示会
8日(土). 9日(日) ロビーにて

講
習
会

《豆鉢で楽しもう》

第1回目 6月23日(日)午後1～3時
内容 さし木、つぎ木のしかた

定員 50名 無料

第2回目 7月14日(日)午後1～3時
内容 鉢作り(実技)

定員 30名 実費1,000円
(粘土代)

講師 旭川市緑の相談所
相談員 本郷 仁

《野草ガイドブックづくり》

1回目

◇植物採集と押し花づくり

日時 7月28日(日) 午前10～12時

講師 旭川市立大有小学校
教諭 福地 徳次先生

定員 親子30組 実費300円

■お申し込み・お問い合わせは
旭川市緑の相談所(神楽岡公園内)
☎65-5553

7月28日(日) 緑の相談所周辺にて

園芸市 グリーンコンサート
ホテル鑑賞会 フリーマーケット

緑のセンターまつり'96 ピアガーデン

花株プレゼント おまつりコーナー
花づくり講習会 餅つき大会 等々

お楽しみに!

肥料のことより

園芸相談で必ず話題にでてくるのは「肥料」にかかわる件です

〇 花が咲かない「肥料が足りないのでは？」 〇 元気がない「肥料が足りないのでは？」
〇 伸びが悪い「肥料が足りないのでは？」 〇 枯れてきた「肥料が足りないのでは？」
〇 このトマト美味しくない「肥料が間違っているのでは」云々 ……………

これらについては全部間違っているとは申しませんが、たいがい肥料というより他に原因がある場合が多いようです。

肥料のことを考える前に 1 土の状態は？ 根づまりしていないか？、
2 日当たりは？ 寒すぎないか 暑すぎないか？ 3 水の加減は？
4 病気はないか 虫はいないか？ 次に 5 肥料はよく効いているかなど順番に観察し推理して行きますとほとんどのケース3までで解決するようです。

- ◎ 花や実を育てるのは根です ～ 根がよく育つ環境（土）を作ること。
根は土の中で直接見えませんが、根が丈夫になってはじめて元気な茎や葉が伸びるものですから、まづ土のことを考えます。
- ◎ 根も空気が大好き ～ 水が溜まる土では根も窒息死します。
根が弱いと肥料も水も吸収できず茎や葉が伸びません。根が弱る原因には土がしまつて空気も水も通さない、肥料が多すぎて根が焼けた、混みすぎて新しい根の伸びる余地がない等がよくある例です。
- ◎ 葉や茎を丈夫にする主役は光線です ～ 多くの植物は光線好きです。
植物は光と空気から栄養の大部分を作ります、肥料はその働きをちょっと手伝うだけです。
但し、植物は先祖が育った環境によって強い光線を好むもの、木陰のような弱い光線が良いもの等種々ありますので、日の当たり具合に注意します。
- ◎ 花や実の質を良くするのも光線です ～ 色鮮やかな花、甘い実には何よりも光が必要です、光からつくる養分（糖分）の量で花の色の濃さ、実の甘さが決まります。養分をつくる葉も大切にします。肥料ではなく日当たりです。

以上皆さんご存じのことばかりですが、どうしても早く育てと肥料に頼りがちになります。育つ環境が合わなければ肥料が効かないばかりか、かえって害になる例が多いものです。

夏の園芸作業

6、7月は北国の植物が一年分の生育をし、来年の花の準備を始める季節です。熱帯、亜熱帯からやってきた植物達も、一年の中で一番過ごし易い季節といえるでしょう。しかし、7月の中旬になると気温が高くなり植物達には、息苦しい季節でもあります。

この時期の管理の要点をあげてみました。稔りの秋、来春の花の季節に向けて適切な手入れをしましょう。

- ・ 室内の鉢物も屋外に出し可能な限り日光にあてる。この時、急に長時間強い光線に曝すと葉焼けを起こすので、徐々に馴らすようにする。種類によって光に対する反応が異なるので、焼けない程度に強い光に当てることに心掛ける。
- ・ 熱帯性の植物を除いて、肥料は7月上旬頃には肥料分が切れるように与える。真夏の高温期は植物の根が休眠し、肥料の吸収を休むので根の周りの肥料分は吸収されないばかりでなく、根を痛めることにもなります。特に来春の花を見る、秋には美しい紅葉を楽しむ種類には、遅くまで肥料が効くのはいけません。
- ・ 紅葉を楽しむ種類はこの他に、この時期葉を痛めないことです。葉に傷がついたり、虫がついたりすると美しい紅葉が見られません。強い風なども避けるようにしましょう。
- ・ 枝や蔓がよく伸びるが花が咲かない、実が着かないといった種類は7月にはいると肥料やりのほかに水やりを少なくし枝や蔓の成長を抑えてやります。花芽は高温と乾燥、窒素肥料分の少ないことが条件となってよくつきます。
- ・ 高温・乾燥が続きほこりが多くなると、葉の裏にダニがつきます。夕方、霧水（シリンジ）をかけてやると発生をある程度抑えることができます。不幸にして発生したら、ダニ専用の農薬で駆除します。
- ・ この時期の農薬の散布は高温・強光時を避けて、朝夕の涼しい時にいたしましょう。葉害がでるのを防ぐためです。なお、農薬は指定された希釈度（濃さ）を守って下さい。濃ければ効くわけではありません。それどころか、葉害を招きますので注意が必要です。
- ・ 垣根など木の刈り込みは、6月の中旬で終えるようにします。時期が遅れると枯れ込みの原因になります。
- ・ 秋に収穫をする果樹類の果実は6月中に適当な数に制限（摘果）してやります。リンゴ、ナシでは葉が27、8枚に1果が目安です。通常の枝であれば、25cmに1果で良いでしょう。美味しい果物をならせるためには、葉を痛めないことです。ブドウで夏から秋にかけて葉を摘むひとがいますが、良いことではありません。病気や虫から葉を守り、傷もつけないように注意しましょう。
- ・ ブドウを含めてフジなど蔓性のもの、広葉樹で伸びの良い種類などにたいして、この時期蔓を切ることは避けましょう。二段伸び（葉の付け根から新しい芽が伸びてくる事）の原因になります。二段伸びをすると翌年の花は咲かず、果実はつかないばかりでなく、冬の寒さで枯れる恐れがあります。

バラの手入れ

6月から7月は今年最初のバラが咲き始める頃です、秋にもまた見事な花を楽しむために大切な管理の季節です

○ 茎葉の整理

蓄のない枝（ブラインド枝）で細いものは付け根から切り、太い枝であれば上から2分の1から3分の1のところまで切ります、また幹から直接出ている葉も取ります。

無駄な葉や枝を付けておきますと風通しが悪くなり病虫害の巣になります。

○ シュートの扱い

花が咲き終わった頃、幹の根元に近い部分から赤い勢いの良い芽（シュート）が伸びだします、これを育てますと秋には立派な花を着け、また来年の大事な幹になりますので大切に扱います。

○ 剪定の方法

バラは枝を切ってから40～50日で花が咲きます。このことを計算しながら7月下旬に剪定しますと、9月中旬頃バラの最も良い季節に咲きます。

・切り方の基本～枝の根元から数えて5枚葉を3～5枚残して切る。

枝の上の位置から切ると上になるほど花が小さく短い。

若い枝が伸びださない古い幹や枝は元から取る。

・シュート ～シュートは伸びて多数の花を付けますが、花はすぐ摘み、剪定の時期になって幹の下から3分の2を残し切る。

○ 病虫害

バラの管理は病気・害虫との戦いで、毎日観察発生初期防除を徹底します。

・病害 ウドンコ病 ～ 葉、幼茎に白いうどん粉のようなカビが広がる。病斑が小さいうちに防除 株の風通しを良くする（ダコニール ミラネシン モレスタン）

黒星病（黒点病）～葉に黒い斑点、次第に黄色くなり落葉する。落葉は拾い土に埋める、雨上りに急に蔓延する（ダコニール ジマンダイセン）

灰色カビ病 ～ 花（蕾）に灰色のカビつき、花が開かない雨後に多い（ベンレート トップジン）

・害虫 アブラムシ ～ 葉の裏、幼茎に密生し樹液を吸い株を弱らせる。繁殖が旺盛なので少ないうちに見つけ駆除（オルトラン エストックス）

ヨトウガ ～ 葉の裏に卵を生み 孵化した後葉を網目状に食害株を揺ると糸を引いて落下する。

葉の裏をみて卵を落とす（スミチオン ランネート）

ハダニ ～ 葉の裏で繁殖し葉が黄色になる

高温乾燥状態で大発生

葉の裏に散水（ケルセン、アカールモレスタン）